かわさきＴＭＯ通信

＜毎度おじゃまします・かわさきＴＭＯタウンマネージャーです＞

２０１８年１月号 No.６９

- ●まちづくり部会第１回報告
- ●まちづくり部会第２回報告
- ●事務局たより

発行元：かわさきＴＭＯ
発行責任者：会長 猪熊俊夫
編集責任者：タウンマネージャー 笹原克
発行日：２０１８年１月２５日
発行部数：1,000 部
◆連絡先
ＴＥＬ：０９０－９８３３－５８８８
Ｅmailoikos.sasahara@nifty.com

「まちづくり情報交換誌」を目指しています。タウンマネージャーにお気軽に情報をお寄せください。
ご意見・ご感想・ご要望大歓迎です！

◇まちづくり部会第１回報告

かわさきＴＭＯの本年度事業として、これまでのＴＭＯでの様々な活動及び提言などをさらに幅広く展開していくことを目的として、まちづくり部会を開催します。第１回まちづくり部会が十月三十日に川崎市産業振興会館で開かれました。参加は自由で、商店街、大型店、銀行、行政関係の方々が参加されました。

部会の目的は、「川崎駅周辺地区のより良い環境づくりのため、地域関係者が主体となってまちづくりの提言を行なうこと」とされました。

最初に、ＴＭＯのこれまでの提言をまとめた「明日の川崎　ＡＣＥ戦略」をたたき台として議論を進めました。ＡＣＥ戦略は、便利で近づきやすい街づくり（ＡＣＣＥＳＳ）、安心安全できれいな街づくり（ＣＬＥＡＮ＆ＳＡＦＥＴＹ）、楽しく過ごせる街づくり（ＥＮＪＯＹ）をキーワードとしてそれぞれの事業提案がなされています。アクセスでは、回遊性の確保（ワンコインバス、電気自動車による小さな回遊、ＬＲＴによる大きな回遊）、川崎駅南口都市軸（南口改札設置、大型バス駐車場設置）などです。

クリーン＆セイフティーでは、快適な商業環境づくり（はみ出し看板や商品陳列の禁止、客引き行為の禁止、大型ゴミの適正収集）、誇れる街づくり（富士見公園再々整備、自転車交通の位置づけ）、国際化基準の街づくり（シティーホテルの誘致、四カ国語の交通表示、無線ＬＡＮ環境整備）が提言されています。最後にエンジョイでは、街が劇場になる街づくり（バスカーによる街角の音楽、オープンカフェによる公道利用、街なかに映像を）、川崎の歴史を掘り起こす街づくり（旧東海道宿の整備、旧市庁舎の一部保存、多摩川渡しの再生）が提言されています。

これらたたき台を参考として、部会での検討及び提案にむけての意見がだされました。「主体を明確にする」、「実現可能性をふまえた時間軸で整理する」、「コスト、実現可能性、質でのチェック」、「行政との調整」などが出されました。

次に、ＴＭＯがまとめた「商店街協定」が資料として説明されました。商店街協定は、平成二十四年三月に川崎駅周辺の１２商店街で結ばれた協定です。内容は、９条で構成されています。一条「目的」、二条「対象の範囲」、三条「看板」、四条「商品展示」、五条「自転車」、六条「客引行為」、七条「荷捌き」、八条「国際都市にむけて」、球場「協定の実行」です。これら協定の三条、四条、六条については、川崎市、川崎警察、商業者が集まり協議会を設立して、はみ出しに関してはパトロールを、客引きに関しては防止条例ができていることの説明がありました。

この資料をふまえて、活発な意見、提案がなされました。「街全体として看板を統一できないか」、「建物を建てる時にセットバックをできないか」、「川崎らしさをどうつくるか」、「危機管理を導入していく」などです。これら意見をふまえて、次回以降の部会を進め、三月には、部会としての提言を行なう予定です。

（タウンマネージャー　笹原克）

◇まちづくり部会第二回報告

第二回まちづく部会が十一月二十七日にミューザ会議室で開催されました。第一回部会の議論から出された「ＡＣＥ戦略」の実行性から時間軸で整理した資料の説明がはじめにありました。■実行中事業（はみ出し看板と商品展示の禁止、客引き行為の規制、

四カ国語道路標識、バスカーによる音楽の街）、■社会実験中（ワンコインバス、オープンカフェ）、■計画として発表（市庁舎一部保存、シティーホテル）、■短期に実現可能な事業（中量輸送バスシステム、大型ゴミ処理、レンタルサイクル）、■中期的に実現可能な事業（電気自動車による小さな回遊性づくり、駅東西ペデストリアンデッキに寄る回遊性創造、旧東海道川崎宿の整備、多摩川渡し）、■長期的に実現可能な事業（ＬＲＴの導入、富士見公園再々整備）などでした。

この整理から、幅広い意見が出されました。「リノベーションからの街づくりが始まっている」、「川崎駅地区の課題は東西問題であったが、北口の開設で南北問題がうまれている」、「シティーホテル、川崎駅南口、さいか屋跡地、大型バス駐車場、富士見公園という川崎駅都市南軸が大切になる」、「旧東海道川崎宿の取組みの現状報告」などが議論となりました。

次に、まちづくりの基本となる「クリーン＆セイフティー」の視点から生まれる川崎のまちづくりを考えました。資料として『銀座らしさ』の継承と創造：銀座協議会が提起するもの」という竹沢えり子氏の研究資料が配布されました。本資料からは、まちづくりの必要条件である「地元商業者の強い連係と共通する信念と研究努力を具体的な形で推進していく方法や歴史がまとめられています。

「川崎らしさ」とは何か。いろいろな意見があります。川崎駅の東と西では違いますし、東の中でも銀柳街と仲見世通りでは違うし、銀座街とチッタも違っています。これらの違いこそが川崎らしさと捉えることができます。

しかし、一方で、このそれぞれの個性（違い）を商業者がどの程度認識しているかが課題だという意見があります。「川崎が選ばれる街になるには何をすれば良いかという視点が必要」という意見もあります。「街が元気になるには、住民が増えること、そして街の外から沢山の人が来てくること」という、沢山の人が望むものを提供できる街づくりが必要という意見もあります。そして、これらを実行していくまちづくりの基本となるのは、「クリーン＆セイフティー」であるといえます。

銀柳街では、現在の課題を乗越えて新しい商店街の姿を見いだすために「川崎銀柳街・川崎銀座街　街づくり検討会」を設けており、「川崎銀柳街街づくりルール」が策定されたことが報告されました。次回の第三回部会において内容を紹介することとなりました。また、新しいまちづくりの方法として「リノベーションによる街づくり」が起こりつつあります。この新しい動きについても、次回の部会で紹介してもらうこととします。次回は十二月二十五日に開催します。

（タウンマネージャー　笹原克）

◈事務局たより◈

ＴＭＯには、まちづくり部会と提言部会、二つの部会があり、両部会共に、熱心な議論を続けています。今回の通信はまちづくり部会をとりあげましたが、両部会共に、かつてＴＭＯがまとめた「明日の川崎　ＡＣＥ戦略」がたたき台となっています。

当時から変わらない視点は、川崎駅を中心とした東西軸（中央口・北口・南口の三つの軸）の強化と多摩川軸の明確化、富士見公園までを含む広域的な回遊性の確保です。

外部環境の変化として、首都圏諸都市において、たとえば、新品川駅の開設や渋谷ストリームなどオリンピックに向けた都市改造が着々と進み、隣の横浜市でも駅西口に新たな商業集積も生まれます。こうした外部環境の大きな変化とあいまって、川崎駅周辺の動きとして、北口自由通路の開設に伴う新たな商業空間の開設や、さいか屋閉店、マルイ撤退などが続きます。

このたびの北口自由通路の開設はＴＭＯが求めてきた東西軸の強化であり、首都圏諸都市との競争に勝つうえでも大きな意義を有します。ただ、意図していなかったさいか屋の閉店やマルイ撤退を見れば、東西軸のうち貧弱な南口の強化を図ることが喫緊の課題となります。一月、ＴＭＯは独自に北口自由通路の開設前後の交通量調査を行い、人の流れの変化がどのように変化しているかを確認し、今後、協働と競争による川崎の魅力の発信に向け南口の強化を提言してまいります。

（リエゾンコーディネター　伊藤）